

保健師便り

Vol.73

## 蚊とデング熱 後編

2024.8



7月に掲載した蚊に続き、今月はデング熱についてお伝えいたします。2024年のデング熱の世界の感染者数は1000万人を超え、年間患者数が過去最悪だった2023年を既に大きく上回っています。デング熱の流行の背景には、地球温暖化の影響による蚊の生息域の拡大や生息数の増加、感染者や蚊の地球規模の移動があるようです。

2014年夏、都立代々木公園等を訪れた方から、海外渡航歴がないデング熱患者が発生しました。その後、160名に及ぶ国内感染例が報告される事態となり、日本では約70年ぶりの確認となりました。



ちなみに、日本には100種類以上の蚊が生息していると言われますが、その中でも、人間の血を吸うのは限られた種類の蚊で、その代表的な種類が「ヒトスジシマカ」と「アカイエカ」、「チカイエカ」だそうです。



### ○デング熱とは

デングウイルスを持った蚊（ネッタイシマカ・ヒトスジシマカ）に刺されることによって生じる感染症です。日本では、ネッタイシマカの生息は確認されておらず、国内感染は、ヒトスジシマカによる媒介によって生じます。ヒトからヒトに直接感染することはありません。

### ○症状

蚊に刺されてから2～15日（多くは3～7日）の潜伏期間の後、初期症状として突然の高熱、頭痛、眼痛、顔面紅潮、結膜充血を伴い、発熱は2～

7日間持続します。初期症状に続き、全身の筋肉痛、骨関節痛、全身倦怠感を呈します。発症後3～4日後には、胸部、体幹から始まる発疹が出現し、四肢、顔面に広がります。症状は1週間程度で回復します。ごく稀に重症化して、出血症状やショック症状を呈するデング出血熱を起こすことがあります。

## ○治療

特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。また、デングウイルスに対する予防接種もありません。

## ○予後

デング熱は、体内からウイルスが消失すると症状が消失します。予後は比較的良い感染症です。しかし、稀に（約1～5%）出血傾向やショック症状を呈するデング出血熱を起こします。この場合も、適切な治療を行えば多くの人は回復するので、早期に受診し、適切な治療を受けることが大切です。



地球上で最も人を殺しているのが「蚊」で、  
様々な感染症を媒介することによって



年間約72万人もの命が奪われているというデータがあります。  
7月号もご参考に、蚊に刺されない対策を行ってください。

<参考・引用文献>

[デング熱 Dengue fever | 東京都感染症情報センター \(tokyo.lg.jp\)](#)

[よくある質問 Q & A 東京都保健医療局 \(tokyo.lg.jp\)](#)

[デング熱、過去最悪の大流行 日本でも「輸入症例」が2.8倍に | 毎日新聞 \(mainichi.jp\)](#)

[ヒトスジシマカが発生する原因とは？ヒトスジシマカの習性を知って対策しよう！ - For your LIFE \(fumakilla.jp\)](#)

[2024年7月保健師便り「蚊とデング熱」前編.pdf \(keihin.or.jp\)](#)



一般財団法人  
京浜保健衛生協会  
FOR HEALTHY LIFE

この記事は、神奈川県川崎市高津区にある健診機関「京浜保健衛生協会」が執筆・監修しています。人間ドック/巡回健診/女性のための健診/がん検診など、健診でお悩みの際はお気軽にご相談ください。



一般財団法人 京浜保健衛生協会